

【12 月の気象】

12 月に入ると、シベリア高気圧が次第に勢力を強め、西高東低の冬型の気圧配置となって、寒気の流れ込む日が多くなります。「冬型の気圧配置」とは大陸に高気圧があって、日本の東の海上から千島方面に発達した低気圧がある気圧配置を言います。西高東低の気圧配置とも呼ばれています。冬型の気圧配置になると、日本海側では曇りで雨や雪が降ることも多くなりますが、太平洋側では晴れて空気が乾燥します。愛媛県では、季節風が関門海峡を吹き抜けてくるため、寒気が強い場合には海上で発生した雪雲が県内に流れ込み、12 月でも大雪となることがあります。

【気象用語】「冬型の気圧配置による大雪」について

冬型の気圧配置が強まる場合は、強風（強風・暴風）や高波（波浪）のほか、雪による視程障害（風雪・暴風雪）、降雪や積雪（大雪）、路面凍結による交通障害や水道管の凍結（低温）、電線などへの雪の付着（着雪）などにも留意してください（括弧内は対応する注意報や警報）。

冬型の気圧配置で、大雪になるかを考えるとき気象台では大まかに次のことを検討します。

▷ 寒気の強さ

目安として、高度 5500m 付近で -30°C 、高度 3000m 付近で -18°C 、高度 1500m 付近で -9°C 程度の寒気が入ってくると大雪となる可能性が高くなります。図 1 は、高度 5500m 付近（左図）で -30°C が瀬戸内側まで南下し、高度 1500m 付近（右図）では -9°C が四国の太平洋側まで流れ込み大雪となった 2022 年 12 月 23 日の例です。

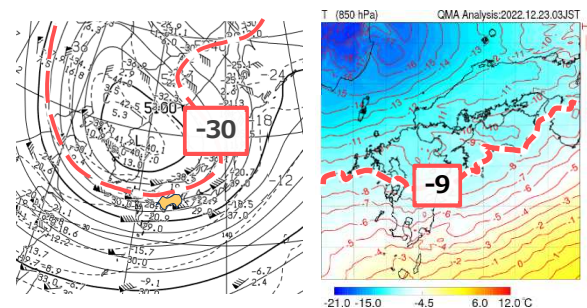


図 1 高度 5500m 付近と 1500m 付近の温度 ($^{\circ}\text{C}$)

▷ 湿潤層の高さ

湿潤層は地上からどの高さまで湿っているかを考えます。湿潤層が高いほど雪雲が発達します。概ね高度 3000m 付近まで湿っていると大雪となる可能性が高くなります。

▷ 風向および継続時間

関門海峡等から流れてくる雪雲が、愛媛県のどの地域に流れ込むかは、概ね風向により決まります。北西から西北西の風向では中予から南予北部、北西から北北西では南予中心に雪雲が入りやすくなります。その風向がどのくらい続くかによって雪の降る量が変わります。1 日程度同じ風向が続くようだと、大雪となる可能性が高くなります。

図 2 は 2022 年 12 月に久万高原町を中心に大雪となった時の天気図です。等圧線は西日本では北西から南東方向に傾き、地上付近の風は西北西となり中予や南予北部の山地を中心に大雪となりました。

図 3 は 2025 年 2 月に南予で大雪となった時の天気図です。等圧線は南北に立っており、地上付近の風向は北北西となっています。

図 4 には、上記 2 例の 3 時間の解析雨量を示しています。降水（雪雲）の流れ込む走行が、上図の 2022 年 12 月 23 日では西北西で中予や南予北部に流れ込み、下図の 2025 年 2 月 8 日では、北北西から北西の走行で、南予を中心に流れ込んでいる様子が分かります。

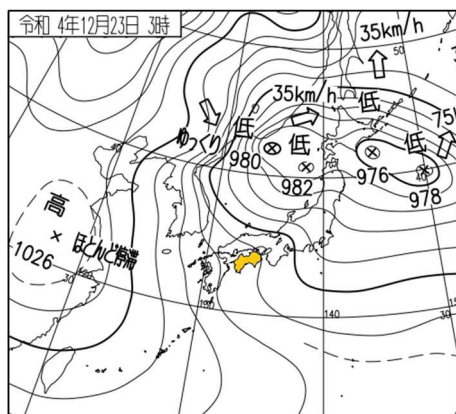


図 2 地上天気図（2022 年 12 月 23 日）

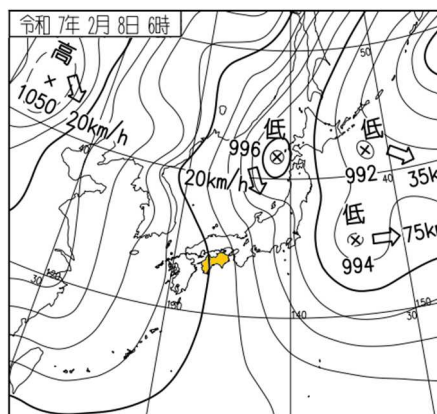


図 3 地上天気図（2025 年 2 月 8 日）

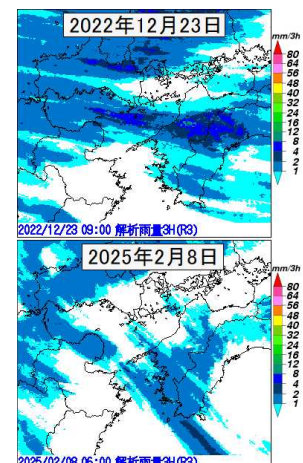


図 4 解析雨量